

第5章 総括

15年度から24年度のPRTR届出データを件数別、物質別、業種別、都道府県別に分析しました。物質別の届出件数に関しては、事業所数は、20年度から減少傾向を示していますが、政令改正による追加物質の影響で、22年度以降1事業所当たりの平均届出物質数が5.5から6.8に増加しています。業種別に見ると、燃料小売業からの届出件数が24年度で46%と約半分を占めており、燃料小売業であるガソリンスタンドからの届出の減少が物質別届出件数の推移に影響を与えています。

排出量合計の91%を占める大気排出量は、継続的に減少し、24年度は15年度と比べ105,000トン(42%)減少しています。特にトルエンの大気排出量は、65,000トン(54%)減少と減少量が最も大きくなっています。また、キシレンは18,000トン(38%)、塩化メチレンは13,000トン(54%)減少しています。トルエンの大気排出量を業種別に見ると、上位業種はどれも減少量・減少率が大きく、大気排出量全体に影響を与えています。同様に、キシレンでは輸送用機械器具製造業が、塩化メチレンでは金属製品製造業や化学工業の減少が目立っています。大気排出量の減少は、主にトルエン、キシレン、塩化メチレンなどのVOCの排出量削減対策による結果と考えられます。

移動量の99%以上を占める廃棄物移動量は、21年度までは減少傾向を示していますが、22年度、23年度で増加し、24年度減少しています。これは、追加物質の影響と23年度の鉄鋼業のマンガン及びその化合物とクロム及び三価クロム化合物の増加によるものです。

また、排出量・移動量の上位都道府県別に関しては、都道府県による業種の特徴が表れてきますが、概ね、輸送用機械器具製造業やプラスチック製品製造業でのトルエンやキシレンの減少が大きくなっています。

追加物質に着目すると、届出件数はほとんど変化がなく、24年度には1位の1, 2, 4-トリメチルベンゼンと2位のノルマルヘキサンで追加物質全体の80%を占めています。この2物質は、ガソリンの成分であり、燃料小売業が、それぞれ90%、92%と非常に高い割合を占めています。大気排出量は、24年度ではノルマルヘキサンが10,000トン(69%)で、次いで1, 2, 4-トリメチルベンゼンが2,300トン(15%)、1-ブロモプロパンが1,200トン(7.7%)となっています。廃棄物移動量は、24年度では塩化第二鉄が9,500トン(40%)、ノルマルヘキサンが4,500トン(19%)、N, N-ジメチルアセトアミドが3,500トン(15%)となっており、上位3物質で74%を占めています。大気排出量及び廃棄物移動量は年々減少しており、24年度は22年度と比べ大気排出量は1,700トン(10%)、廃棄物移動量は3,200トン(12%)減少しています。

NITEでは、今後も引き続きPRTR届出データの動向を把握し、情報提供することにより、化学物質の適切な管理に貢献していきたいと考えています。